

グレートバリアリーフからのメッセージ～Bring Your Own Bag

日本でもスーパーのレジ袋の有料化等が行われ、エコバッグの活用がますます増えてきています。廃棄される不要な布を使って「ブーメランバッグ」とよばれるエコバッグを作る活動を広めている「ブーメランバッグ和歌山」代表の貴志真帆さんに話をうかがいました。



漂う海洋プラスチックゴミ



初めて出会ったブーメランバッグ

最初は一目ぼれから
ある日、貴志さんはオーストラリアで暮らす友人から、お土産でエコバッグをもらいました。このバッグは何だろう？既製品とは違い、縫い目が歪んでいて誰かの手作りという仕上がり。しかし「BRING YOUR OWN BAG(バッグを持参しよう)」と書かれたロゴが縫い付けられています。第一印象は「なにこれ！かわいい！」でした。貴志さんはこのバッグとロゴが気に入って、英語で紹介されたウェブサイトに何が書かれているか調べました。

オーストラリア発の活動
オーストラリアはグレートバリアリーフ等世界屈指の美しい海に囲まれている事でも有名ですが、同時に海洋プラスチック問題にも悩まされています。ペットボトルやビニール袋などが、自然環境中で紫外線や劣化や摩擦などの影響を受け、破砕・細分化されてマイクロプラスチックになったものが海中を漂うことで、海洋中の生態系を含む環境が悪化し、世界中で問題となつていきます。

ルールがなくなり、とても簡単
ブーメランバッグは販売、配布、店舗での貸し出し等、様々な取り組みができ、これといったルールは示されていませんが、作ったグループを運営するためのアドバイスを丁寧にしてくれます。



ブーメランバッグのラベルを縫い付けます

最後に母親からミシンを借り、悪戦苦闘のすえ一枚のブーメランバッグを作ってみると、作る楽しさに目覚め、毎日のようにミシンを使うようになった。

最初は作ったエコバッグを友人にプレゼント。現在は一枚500円で販売しています。

ブーメランバッグの活動を広めたい
現在、日本では3つの団体がブーメランバッグの制作に携わっています。

とても簡単な活動なのに、活動団体が増えないのはブーメランバッグのウェブサイトに英語でハードルが高いのではと考え、貴志さんが日本語で紹介したウェブサイトを立ち上げました。すると、それを見た静岡の人から団体を立ち上げた情報が入ったそうです。最近では和歌山県内の団体からも、ブーメランバッグについて相談があったとか。ブーメランバッグを作り使ってもらおうことで、海が環境が守られることにつながります。日本でも多くのグループができ、交流できれば素敵ですね」と言う貴志さんの顔は輝いていました。(U・Y)

この団体では、ウェブサイトにアップしたエコバッグを作るグループの支援をしており、現在世界で130以上のグループが結成されています。

裁縫経験ゼロからの始まり
実は、貴志さんには裁縫経験がありませんでした。ミシンを動かす事が怖かったといいますが、そのため、ロゴを先に作り、次に布の裁断にとりかかれました。



ブーメランバッグ和歌山
https://kishi-bldg.com/boomerangbags_wkym/



次の「わかつく」は

新型コロナウイルスへの感染を防ぎながら様々な工夫で活動を継続しているNPO。先行きの見通しがなかなか見いだせないなか模索が続いています。事例をご紹介します。次回は2月19日付に掲載予定です。



コロナ禍の社会における市民活動を考える

2月21日(日) [定員]100名 ● 事前申し込み必要
14:00~16:00 Zoom配信

近畿ろうきんと近畿2府4県のNPO支援センターは「近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度」を通して、「新型コロナウイルス感染拡大に対するNPOへの支援活動」、およびコロナ禍での「居場所づくりへの支援活動」や「防災・減災の取り組み」を進めました。

コロナ禍による社会環境の大きな変化により「市民活動に新たに課せられた役割」や「市民活動を支援する重要性」はどう変わったのか。今年度の取り組みを踏まえながら考えます。

講演

「コロナ禍の社会における市民活動を考える
—『新しい生活様式』への対応を踏まえて—」

講師 西川 一弘さん
和歌山大学学長補佐／紀伊半島価値共創基幹准教授

今般のコロナ禍は一種の「災害」とも受け止められています。市民活動を取り巻く環境はどう変わったのでしょうか。地域づくり・防災が専門の西川さんとともに考えます。

オンラインで開催します

●お申し込み方法 ※2月17日17時締切

メールアドレスを正確に把握するために、メールもしくはオンラインからの申し込みのみとさせていただきます。
メールでのお申し込み ▶ info@wnc.jp お名前、ご所属先、視聴URLを受信するメールアドレスをお知らせください。
オンラインでのお申し込み ▶ 右のQRコードからお申し込みください。(https://forms.gle/VYngxT8uBQjCpYgP7)
※いただいた個人情報は本シンポジウムの運営以外の目的には使用しません。

【主催】近畿労働金庫 【企画・運営事務局】わかやまNPOセンター ☎073-424-2223 (火曜～金曜の10時～17時)
【共催】しがNPOセンター、奈良ストップ温暖化の会、きょうとNPOセンター、大阪ボランティア協会、わかやまNPOセンター、シンフォニー、コミュニティ・サポートセンター神戸

パネルディスカッション

- 1 コロナ禍での災害支援ネットワークの取り組み
【しがNPOセンター】 事務局長 西川 実佐子さん
- 2 コロナ禍での特別定額給付金を活用した寄付の呼びかけ
【きょうとNPOセンター】 常務理事 平尾 剛之さん
- 3 コロナ禍での居場所づくりへの支援活動
【コミュニティ・サポートセンター神戸】 スタッフ 山村 弘美さん

- お申し込み時にお知らせいただいたメールアドレスに、視聴URLをお送りします。
- あらかじめZoomをインストールした、インターネットに常時接続できるパソコンからご参加ください。
- Zoomの操作に関するご質問にはお答えできませんのでご了承ください。
- シンポジウムの「録画」「録音」は固くお断りします。

